第 2 回熊谷市荒川かわまちづくり協議会　議事録

（要点筆記）

●日　　時：令和 6 年 8 月 8 日(木)　13 時 30 分から 15 時 30 分まで

●場　　所：熊谷市立文化センター文化会館　第一練習室

●次　　第：1. はじめに、開会、挨拶、出席者紹介
2. 議事(1)　(1)第 1 回熊谷市荒川かわまちづくり協議会の振り返り
(2)第 1 回熊谷市荒川かわまちづくりワークショップにおける開催概要
(3)事例紹介　千代田地区かわまちづくり
3. 議事(2)　(1)論点 1・2　かわまちづくりの目標・方針(案)、計画対象区域(案)
(2)論点 3　ゾーン・主要機能配置(事務局案)
(3)論点 4　活動の展開(ハード・ソフト施策)（事務局案)
(4)社会実験企画(事務局案)
(5)その他　質疑・意見交換
4. おわりに、閉会、今後の進め方について

●出席者：(出席委員）田中規夫会長、山下克己副会長、大澤重明委員、赤沼昇委員、
小川義人委員、高橋美香委員、大﨑幸恵委員、須永伊知郎委員
（欠席委員）岡部聡史委員、野口幸雄委員、野口一都委員、栗原堯委員

（事務局）熊谷市　建設部河川課
都市整備部公園緑地課
産業振興部商業観光課
総合政策部スポーツタウン推進課
（オブザーバー）荒川上流河川事務所　河川環境課

●資　料：次第
委員名簿/座席表
資料 1　第 1 回熊谷市荒川かわまちづくり協議会　議事録
資料 2　第 2 回熊谷市荒川かわまちづくり協議会　審議・質疑・意見交換
資料 3　熊谷市荒川かわまちづくり計画　想定作業スケジュール(イメージ)

1.はじめに、開会、挨拶、出席者紹介	
事務局	・開会の挨拶。
2.議事(1)　(1)第1回熊谷市荒川かわまちづくり協議会の振り返り	
事務局	・資料1を基に、第1回熊谷市荒川かわまちづくり協議会の振り返りについて説明した。
(2)第1回熊谷市荒川かわまちづくりワークショップにおける開催概要	
事務局 【質問】 委員 事務局	・資料1を基に、第1回熊谷市荒川かわまちづくりワークショップにおける開催概要について説明した。 ・出席者25名の内男女比と年齢層を教えていただきたい。 ・男性が17名、女性が8名参加していた。 ・年齢はばらつきがあり、最も高齢な方が80歳（男性）、最も若い方が28歳（男性）である。
(3)事例紹介　千代田地区かわまちづくり	
事務局	・資料2を基に、千代田地区かわまちづくりについて説明した。
3.議事(2)　(1)論点1・2　かわまちづくりの目標・方針(案)、計画対象区域(案)	
事務局 【論点1】 委員 事務局	・資料2を基に、論点1・2　かわまちづくりの目標・方針(案)、計画対象区域(案)について説明した。 ・整備方針1-1に「子供」を明記したことはとても良い。多様な世代だけでなく、体に不自由を抱える人も含むことを明記するため、「子供から大人まで多様な世代の人」を、「子供から大人まで多様な人」に変更してはどうか。 ・「子供から大人まで多様な人」に変更する。
(2)論点3　ゾーン・主要機能配置(事務局案)	
事務局 【論点-3】 委員	・資料2を基に、論点3　ゾーン・主要機能配置(事務局案)について説明した。 ・前回の協議会を踏まえて、整備方針1-3に自然環境の保全・継承に、「創出」も追加したことは、ネイチャーポジティブを実現する観点からとても良い。 ・「荒川河川敷の保全と利用のあり方」により、荒川大橋下流左岸の「荒川緑地」の中で8割が利用、2割が自然としなければいけないが、現

	在、2 割の自然が確保できているかが疑問の状況である。事務局案の自然環境保全ゾーンに加え、スポーツ健康文化交流ゾーン内にも自然環境保全・環境学習ゾーンを一部重ね、自然環境を「創出」する計画としてほしい。追加する場所は、現況坂路の下流の荒川緑地エリア内が良いと考える。 ・また、計画対象エリア内のコアエリアを下流の「元荒川の源流ムサシトミヨ保護センター付近まで」を含む範囲に広げ、市民が学習できる場として一体的に上手く活用できると良い。
事務局	・自然環境保全ゾーンの配置について、緑地内の自然環境を「創出」することを考慮し、今後検討する。 ・計画対象エリアのコアエリアの範囲について、「ムサシトミヨ保護センター付近まで」のエリア拡大について今後検討する。
会長	・自然環境の保全について、荒川の澪筋は変化が少なく維持されており、護岸沿いの流路は近づきすぎると危ないが、荒川大橋の上流側は自然環境を保全する場所としてとても良い場所だと考えている。事務局案の自然環境保全・環境学習ゾーンの配置についてはいかがか。
委員	・荒川大橋の上流側は、ワンドが形成され、生き物と触れ合える場所として良い場所だと思う。それだけではなく、先程述べた「荒川緑地」内の自然環境の創出も計画に位置付けてほしい。カワラナデシコやオミナエシ等の絶滅に瀕した熊谷の在来植物や昆虫が見られる草地環境を、「創出」してほしい。
委員	・ムサシトミヨ(元荒川源流)まで範囲を広げることは、賛成である。 ・将来構想エリアに久下橋周辺まで含む計画となっている。周辺には幻の村　新川村があり、ワンデーキャンプが実施されており、将来構想には新川村を含む範囲となると良い。 ・堤防天端をウォーキングしている人が多いため、利用者向けに距離標などの案内板が整備されると良い。
事務局	・ヒアリングでもウォーキングに関する意見が出ているため、ウォーキング利用者を対象とした案内表示について検討する。
副会長	・スポーツ健康文化交流ゾーン設定についてもう少しふくらませ、体育館を含むエリアとすると良い。
事務局	・体育館をスポーツ健康文化交流ゾーンに含める方向で検討する。
委員	・計画エリア周辺には、体育館だけでなく、図書館や文化センターが立地している。ピンク破線のアクセス軸が示す、駅から図書館、体育館、土堤（かわ）までのアクセスの充実を考慮すると良いのではないか。
事務局	・駅周辺の再開発事業と情報を共有して進めていきたい。
(3)論点 4　活動の展開(ハード・ソフト施策)（事務局案）	
事務局	・資料 2 を基に、論点 4　活動の展開(ハード・ソフト施策)（事務局案)について説明した。

【論点-4】	
委員	・荒川緑地再整備駐車場までとなっているが、駐車場下流のエリアについては、空地となっているので、そこをターゲットとして、自然創出とすると良いのではないか。
事務局	・駐車場下流のエリアに自然環境を創出するエリアの追加を検討する。
委員	・スポーツ健康文化交流ゾーンでは、スポーツが整備内容としてあがっているが、学校でテント（キャンプ）泊を実施している。BBQ も整備内容に上がっているとのことなので、アウトドア系の民間サービスを誘致すると良いのではないか。 ・釣りや SUP のメニューは魅力があるが、学校では水難事故の懸念から、子供たちだけで水辺に近づかない様に指導している。どうすれば安全に川で遊べるようになるのか考える必要があるのではないか。 ・幼児（保育所）が遊びに来ていたりする。安全に遊べる空間整備が望ましい。 ・自然環境学習ゾーンについて、水辺の生き物調査など、小学校での学習を深められる場、どんな学習ができるか広報できる場となると良い。
事務局	・アウトドア施設については、現在は様々な協会が存在しているため、公園緑地課とも連携して検討を進めていく。 ・水辺利用に関しては、維持管理方面も含めて厳しい現状ではあるが、できる限り希望に沿った整備としていけるようにしたい。 ・自然学習については、環境学習に加えて危険を学ぶということも企画にとりこめれば良いと考えている。
会長	・河川の澪筋が護岸に寄っている場所で、水の流れが速く水深が深いことから水辺利用のスペースの確保が難しいことから、どのように安全性を確保しながら空間を確保することが今後の検討課題ではある。
【論点-4】	
委員	・安全に関し、治安面も含め検討してほしい。例えば、河川敷地や堤防上に、夜間の治安確保のための照明を整備することは可能か。
事務局	・福山市のかわまち整備では、ウォーキングコースを照らす連続照明が整備されていた。そのような事例も参考に検討していきたい。
会長	・貴重な意見をたくさんいただいたので、今後のワークショップ等に反映していきたい。
(4)社会実験企画(事務局案)	
事務局	・資料 2 を基に、社会実験企画(事務局案)について説明した。
副会長	・何か事業につなげられる社会実験で、提案等があれば後日メール等でも構わないので連絡をお願いしたい。

【社会実験】 委員 事務局 委員 会長 事務局	・社会実験では、バリアフリー対策に加え、障害を持った方が来たいと思えるメニュー、楽しむことのできるメニューがあると良い。 ・検討する。 ・社会実験企画案のメニューは、概ね賛同が得られると考える。社会実験の試行で地域意見を確認するという目的から、メニューには、地域意見が分かれるようなメニューもあると良いと考える。 ・頂いたご意見は、いずれも社会実験実施にあたり重要な視点である。事企画案に考慮してはいかがか。 ・ワークショップでは、地域意見が分かれる音楽イベント開催の意見もあった。頂いた意見を踏まえ、企画案を検討する。
4. おわりに、閉会、今後の進め方について	
事務局 オブザーバー 事務局	・資料 3 を基に、今後の進め方について説明した。 ・閉会の挨拶。 ・閉会の挨拶。 以上